

# 北海道こんぶ研究

## NPO北海道こんぶ研究会 会報

2008. 8. 31 発行 P1. 巻頭コラム①

通巻 1 卷 2 号 P3. NPO 活動報告 2008. 05~08

(第 2 号)

〒001-0021

北海道札幌市北区北 21 条西 11 丁目

北海道大学創成科学共同研究機構内

プロジェクトリエゾンオフィス気付

NPO 北海道こんぶ研究会 事務局



▲褐色のコンブを加熱すると、色素が壊れて緑色に変色する

(NPO 設立記念フォーラムより)

事務局では今号より、巻頭コラムと題して、会員の皆さんの近況などをレポートして頂き、その文章を掲載して情報交流の基盤として頂こうと考えております。記念すべき連載第一回は、四ツ倉典滋理事長による『「こんぶ」の名前』です。今後このコーナーの記事執筆担当者は、各理事、会員間で持ち回りとさせて頂きたいと思っております。事務局よりお手元に執筆ご依頼があった場合は、ご協力よろしくお願い申し上げます。

### 巻頭コラム①

#### 「こんぶ」の名前

「昆布」の語源は、日本語起源やアイヌ語起源、さらには中国語起源など諸説があるものの、現在では周の時代にできた言葉「綸布」に由来する中国語起源が有力とされています。しかし、この漢字 2 文字を昔の日本人が何と読んでいたかは不明であり、

そもそもこの単語が何を意味していたかも定かではありません。現在、一般的に「昆布(コンブ)」と言うと、分類学的にコンブ属とその近縁属に含まれるスーパーや商店で乾燥品が売られている帯状に長い形状の植物をイメージします。しかしながら、学術的には「コンブ」という表現は非常に曖昧であり、分類上のコンブ目なのか、コンブ科なのか、はたまたコンブ属なのかによってその捉え方は大きく異なってくる

ます。単に「コンブ類」というと広くコンブ目植物を意味し、アラメやワカメ、さらには紐状のツルモなども含まれます（これらは、一生の送り方、すなわち「生活史」が同じ型の植物です）。

私たちの研究会は「北海道“こんぶ”研究会」ではありませんが、皆さんのイメージする「コンブ」についてはもちろん、その他北海道沿岸に生育する多様なコンブ類についても、その保全や利用について考えていきます。

ところで、私たちの研究会の名前はなぜ「こんぶ」（ひらがな）なのでしょう。通常、研究者がこんぶの和名を記す時は「コンブ」とカタカナを用います。また、一般に、水産上のこんぶ製品を表すときは「昆布」と漢字を使うことが多くなっています。本研究会では特定の分野にとらわれず、さまざまな角度からコンブ（類）について考えていこうということから、カタカナでも漢字でもなく、「こんぶ」とひらがな表記しています。

\*

私たちの住む北海道の沿岸にはおよそ30種ものコンブ類が生育しており、その多くが北海道および北海道周辺が分布の中心となっています。北海道のコンブをはじめ詳しく調べたのは、札幌農学校2期生の宮部金吾博士であり、宮部先生によってたくさん種の学名が付けられています。ホソメコンブは *Laminaria religiosa* ですが、(*Laminaria* はコンブ属の属名です)、*religious* は「宗教的な」とか「尊厳な」という意味があります。また、オニココンブは *L. diabolica* で、*diabolica* は「鬼の」とか「悪魔の」という意味ですし、ナガコンブ *L. longissima* の *longissima* は「非常に長い」という意味、ガツカラコンブ *L. coriacea* の *coriacea* は「革質の」という意味があります。これら学名から宮部先生の信仰の篤さや、それぞれのコンブの特徴がわかります。

\*

先にも記しましたが、一般に「昆布（コンブ）」といえばコンブ属とその近縁属に含まれる種のことを指します。コンブ属の属名は *Laminaria* (ラミナリア) であり、マコンブ(真

昆布) やリシリコンブ(利尻昆布)、ミツイシコンブ(日高昆布) など日本有用昆布の殆どがコンブ属に含まれることから、我々にとって「コンブ」といえばラミナリア、「ラミナリア」といえばコンブ」を意味してきました。しかしながら、近年の遺伝子解析によって、世界の *Laminaria* が2つの系統群に分かれることが明らかとなり、日本の有用種が含まれる系統群は属名を *Saccharina* (サツカリナ) に変えなければならなくなりました。

これまで「コンブ」といえばラミナリアであり、慣れ親しんだ「ラミナリア」が使えなくなるのは寂しい気もしますが、これからは「コンブ」といえばサツカリナ」ということになります。

また、最近では形態比較や交配実験、遺伝子解析の結果から、日本の主要な産業種であるマコンブ、ホソメコンブ、リシリコンブ、オニココンブを生物学上同一種として扱うことも提案されており、コンブ類の分類については目が離せない今日この頃です。(よつぐらのりしげ)

## リシリコンブ種苗採取(10月4日(土)予定)のお知らせ

本法人では、地元利尻町等の合意を得て、リシリコンブの種苗採集を行います。これは、セブニーイレブンみどりの基金公募助成事業の取り組みのひとつであります。今回は利尻町教育委員会主催による「利尻あるある発掘探検隊」の一環として実施されます。

開催概要は、本法人の川井唯史理事による講演「リシリコンブについて」、札幌医科大学付属臨海医学研究所の高橋延昭副所長による講演「コンブのヒゲについて」など、また、コンブ遊走子の顕微鏡観察や、リシリコンブを用いた新規食材「荒波うどん」の試食などが、種苗採取とともに行われます。

日時は10月4日(土)10:00～12:00、場所は利尻町交流促進施設「どんと」(〒097-0401北海道利尻郡利尻町杵形富士見町)にて開催します。

お時間に余裕のある会員の方は、ぜひご参加ください。

## NPO活動報告

2008年5月～8月

■第14回あわびの里フェスティバルに参加、お刺身こんぶ試食会を開催  
(5月18日(日))

5月18日(日)、八雲町熊石区で開催

されました『第14回あわびの里フェスティバル』に当会のブースを出展、お刺身こんぶの無料試食会を開催しました。  
ひやま 漁協(熊石水産種苗生産センター)の南部政人主任に



ご協力頂いて育成したお刺身昆布を使い、本法人の勝山吉徳理事(株CEL-Design)が中心となって約100人の方にご試食頂きました。好評のうち1時間程度で用意したお刺身こんぶがなくなつたため、やむなく試食会を午前中で終了しました。

■『日高昆布フォーラム2008 in さまに』(5月25日(日))に参加

5月25日(日)、日高管内様似町で開催された『日高昆布フォーラム2008 in さまに』に、四ツ倉典滋理事長、川下浩一副理事長の2名が参加して参りました。以下に当会サイトで公開されている四ツ倉理事長の参加手記を再掲載します。

\*

様似町で開催されました「日高昆布フォーラム」は雨にもかかわらず

大勢の方が来られていて、想像以上に盛大な集まりでした。午前は、敦賀で昆布問屋(奥井海生堂)を経営されている奥井隆さんの昆布の歴史と文化に関する講演で、午後は漁協の方々による歌と踊り、そしてパネルディスカッションでした。

私がおもっても驚いたのは参加者(多くが地元町民)のコンブに対する意識・関心の高さで、漁業者や主婦の方々が多く詰めかけていましたが、皆が熱心に講演やディスカッションに聞き入っていました。今回、道内の生産地と消費地のコンブに対する市民の意識のギャップを大いに感じました。

様似町長や副町長ともお話をさせて頂きましたが、敦賀の奥井さんを含め、目指すところはわれわれ

地元の産物をいかに消費者に知って利用してもらうか(etc)も多いと感じましたので、今後地域と連携をとっていったらと思います。

地元行政・町民の熱意が大いに感じられるフォーラムでしたが、年一回の恒例行事として続けていく(開催場所は管内の町間で検討するとうことです)ということですので、皆さんも次回はご都合がつかましたらぜひご参加ください。

■2008年度第1回理事会開催  
(6月3日(火))

2008年度初めての会合となる第1回理事会が6月3日(火)、北海道大学創成科学共同研究機構プロジェクト研究棟で開催されました。

議題としては、セブニーイレブンみどりの基金による「コンブを用いた海の森づくり」事業の採択報告および事業推進の方策についての討議、助成の根拠となった種苗保存設備の導入スケジュールの報告、本年度のフォーラム等年間スケジュールの確認および分掌、また、四ツ倉典滋理事長からは、当会のロゴマーク募集についての発議が行われました。そ



▲熊石区での試食会の様子(上左、右) 日高昆布フォーラムの様子(中)と、席上であいさつする四ツ倉典滋理事長(下)

の他にも含め、議論された議題は満場異議なく可決承認されました。

＊

### ■活動助成金応募状況

#### ↓申請中の案件

・ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動」市民研究支援 第8回新規助成

(6月16日(月)締切・助成額300万円)

・科学技術振興機構(JST)地域ニーズ即応型

(6月27日(金)締切・『生食用生鮮「お刺身こんぶ」長距離輸送技術の確立』

助成額1,000万円)

第6回パートナーシップ大賞

(7月31日(木)締切・『地域の活性化に資するこんぶ陸上養殖事業』・賞金30万円／10万円)

☆

### ◎採択された案件

・セブン-イレブンみどりの基金

2008年度公募助成(活動助成)

(4月30日(水)通知・『コンブを用いた海の森づくり』採択額812,000円)

・2008年度北海道ろうきん社会貢献助成制度

(採択通知6月6日・採択額15万円)

☆

### \$応募申請検討中の案件

・科学技術振興機構(JST)地域科学技術理解増進活動推進事業・活動助成/機関連携型(次年度応募)

・内閣府 地方の元気再生事業

(次年度応募)

×不採択となった案件

・2008年度北海道ろうきんNP

○自動寄付制度

(不採択通知6月6日)

### ■新入会員

5月1日(木)から8月29日(金)までに入会された方を紹介します。

☆

●村上俊哉 様

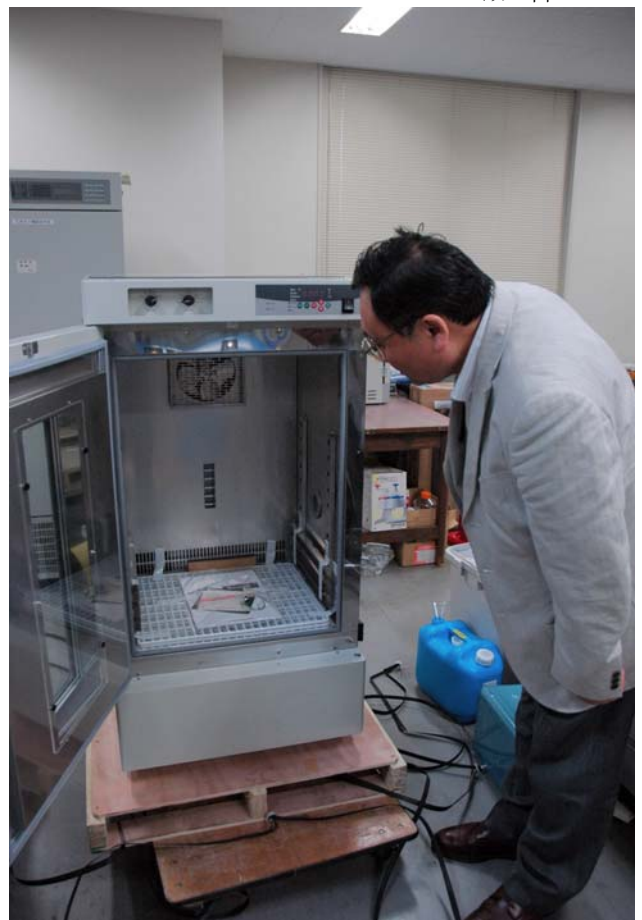
(個人会員) (株)エコニクス特命沿岸再生プロジェクト マネージャー)

☆

8月31日(日)現在の会員数は、理事会員10人＋一般会員8人の計18人(うち今年度の新規入会7人)です。

8月末にはセブン-イレブンみどりの基金の公募助成を受けて行っている「こんぶを用いた“海の森”づくり」事業の根幹となる、種苗管理

施設が導入され、9月より本格運用が始まります。



▲8月27日、セブン-イレブンみどりの基金の助成事業によって導入された種苗管理施設(恒温槽)。右側は本法人の荒磯恒久理事。

事務局では、本格運用開始の前にセレモニ的な行事を行おうと企画しております。

場所は事務局所在地と同じ北海道大学創成科学共同研究機構内、日時は本年秋頃を予定しております。

詳細は決定次第メールリングリスト等でお知らせいたしますので、それまでお待ち頂けますようお願いいたします。

北海道こんぶ研究

2008年8月31日発行

通巻2号(第1巻第2号)

編集人 川下 浩一

発行人 特定非営利活動法人北海道こんぶ研究会

事務局 〒001-0021

北海道札幌市北区北21西11

北海道大学創成科学共同研究機構内

プロジェクト研究部門リエゾンオフィス気付

Tel.011-706-7305 Fax.011-706-7306

[http://dokei.net/konbu\\_npo/](http://dokei.net/konbu_npo/) konbu\_npo@dokei.net